

# 2020円卓ビジョン

～想像から創造へ～



平成28年4月

銚子円卓会議

## 1 はじめに

銚子円卓会議は、まちづくりに関わる多様な主体が連携し、「ヒト」「モノ」「コト」「カネ」など地域資源を発掘・育成・架橋することで地域課題の解決に取り組もうとする地域づくりプラットフォームです。

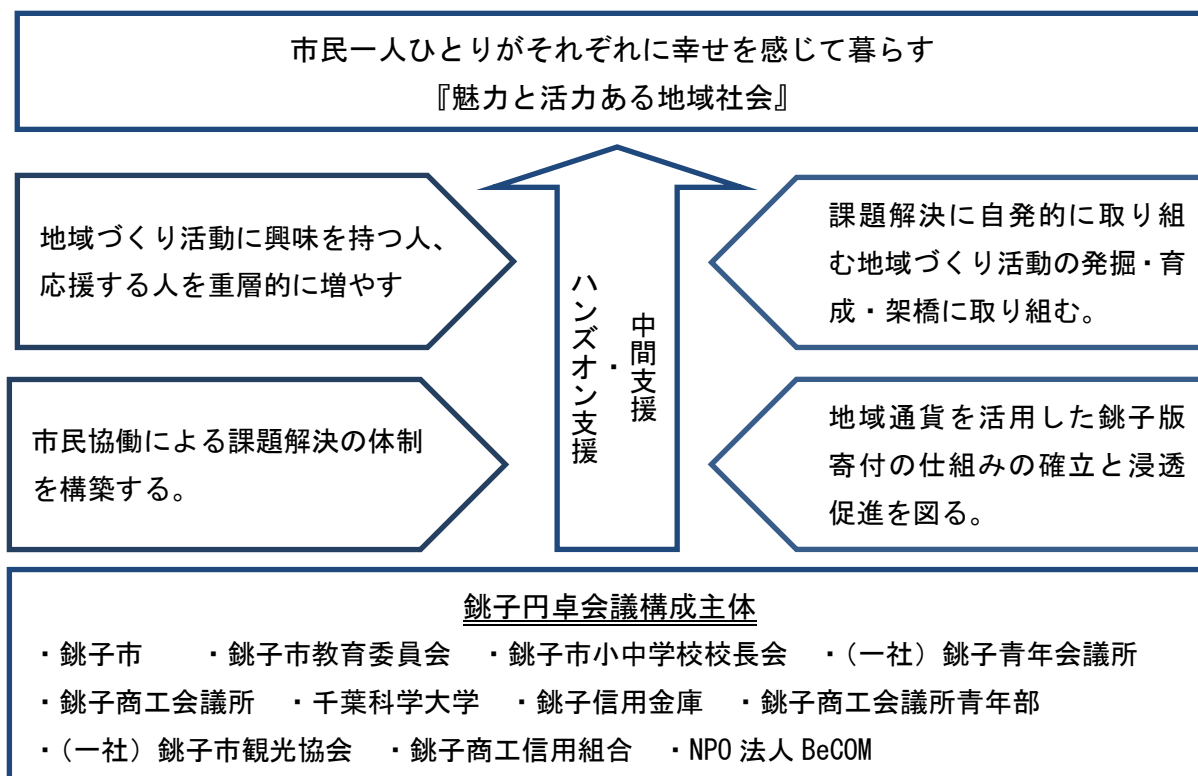
加速する人口減少社会の中で、希望を紡ぎ生きていける地域の創造には、私たち市民一人ひとりが地域づくりの主体的な担い手であるという意識と行動が必要です。

地域貢献型電子マネー「犬吠 WAON」カードを媒体とする電子地域通貨「すきくるスター」は、域内消費喚起に寄与し、まちづくり活動の寄付財源にもなるものです。この特長は、地域に新しいお金の流れを生みだし、持続可能な地域社会を創造するための駆動力となる社会関係資本を醸成するものでもあると考えます。

地域通貨「すきくるスター」の流通促進を想像の起点とし、分断されがちな従来の枠組みに徹底して架橋する事、多世代、異業種、異分野間のつながりを意識した対話の場をつくり合意のプロセスまで寄り添う事、次世代を担うまちづくり人材を育成する事、そして常に外部からの資源提供を内部の資源循環へとつなぐ視点をもつ事が、円卓会議の使命であり役割です。

2020 円卓ビジョンは、ドゥタンクとして、市民自治を進めるための円卓会議自らの行動指針です。折々に活動のひとつひとつの目的を検証し、軌道修正を加えることを恐れず、役割を果たしていきたいと考えます。

## 2 基本方針



### 3 銚子市との連携・協力

#### ◎まちづくりパートナーシップ協定の締結（2015年（平成27年）6月10日締結）

地域資源である「ヒト」「モノ」「コト」「カネ」の発掘・育成・架橋により、協働のまちづくりを推進し、魅力と活力あふれる地域社会の実現を目指すことを目的とします。

本協定の締結を契機に、銚子市と円卓会議の役割が明確化され、協働による持続可能なまちづくりの推進につながることを目指します。

（テーマ）

- （1）地域資源の多角的な結びつきと活用を通じた持続可能な地域社会の実現
- （2）地域通貨を活用した住民参加による地域活性化
- （3）まちづくりに貢献できる人材の育成と教育
- （4）地域資源をつなぐ新しいコミュニティづくり

### 4 2015年度（平成27年度）の事業概要

#### （1）この指とまれ！プロジェクトの推進

目的：域内消費喚起、まちづくり活動の継続、発展支援

期間：3月活動募集開始 4月円卓会議にて決定 5月寄付募集開始。年度末集計。

\* H28年度からHPにて進捗が月次で公開されます。

内容：小型アンドロイド端末「こちょっぴー」から寄付を募りながらの活動PRを実施。

youtube、SNSを活用したPRの実施。

事業主体名・事業名・内容	目標スター数	寄付スター数
		平成28年3月31日現在
☆千葉科学大学学生警察支援サークル（スターレッツ） <u>ほうれんそうプロジェクト</u> 警備活動の際に必要な無線機30台の購入代	300,000スター	12,857スター
★ナルク銚子拠点くろしお <u>みんなで花を植えよう！</u> 花の苗木購入代	30,000スター	14,702スター
☆銚子商工会議所青年部 <u>ちょーぴーをお風呂に入れてあげよう！</u> ちょーぴーのクリーニング代	300,000スター	12,785スター
★NPO法人銚子スポーツコミュニティ <u>銚子マリ-イベント（サイクリング大会）地域活性化プロジェクト</u> 銚子マリ-イベント（サイクリング大会）による地域活性化プロジェクトの一部、参加選手への参加賞として犬吠WAONカードの配布費用	200,000スター	43,361スター
☆月と海 <u>海と月のグリーンマーケット in 銚子</u> チラシ・ポスターデザイン、印刷代、ワークショップ講師料、ミュージシャンギャランティ	100,000スター	15,420スター

★有限会社銚子海洋研究所 <u>銚子の海を知ろう！！感じよう！！</u> 子どもたちの体験乗船燃料費	150,000 ｽﾀｰ	59,877 ｽﾀｰ
☆銚子はね太鼓保存会 <u>郷土の太鼓でまちを元気に！</u> 太鼓の修繕及び購入費	400,000 ｽﾀｰ	22,576 ｽﾀｰ
★銚子正調大漁節保存ひびき連合会 <u>子どもたちの楽しめるやっぺよ！</u> 舞台の修繕費	400,000 ｽﾀｰ	74,383 ｽﾀｰ

(2) 地域づくり活動支援体制整備事業の実施（国土交通省補助事業）

背景：域内連携の弱さ、銚子市の課題である県内平均寿命ワースト1、市民の健康への意識の低さ

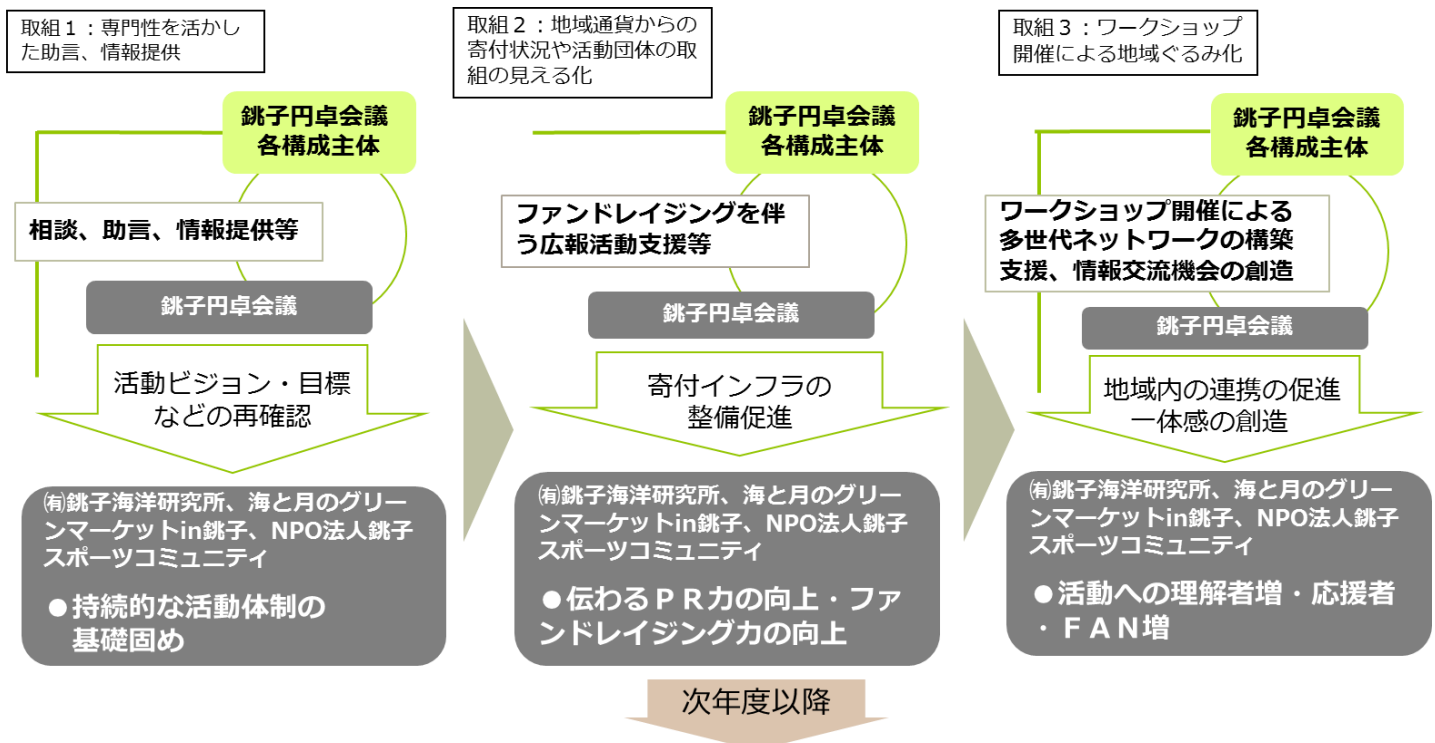
趣旨：横断的なつながりづくり、市民協働による課題解決の体制構築

内容：「健康寿命の延伸」をテーマとして、関連する3つの地域づくり活動に対して（この指とまれ！プロジェクトから抽出）「見える化」「地域ぐるみ化」を狙う中間支援活動。

【支援先の活動】

- ・「海と月のグリーンマーケット in 銚子」月と海 代表 木ノ内悦子
- ・「銚子の海を知ろう！感じよう！！」銚子海洋研究所 宮内幸雄
- ・「銚子マリーナエンデュール大会」NPO法人銚子スポーツコミュニティ 代表 小倉和俊

■事業概要



平成28年度：中間支援体制を持続可能なものとする事務局体制を確立し、地域通貨の管理・運営、担い手団体の支援等を行う  
 平成29年度：地域通貨からの寄付金額 年額300万円を達成

## ■取組・目標・成果

### 取組 1

支援先団体からの要望等について、月1回開催される「銚子円卓会議」で多様な構成主体の専門性を活かした助言や情報提供を行い、支援先活動団体のビジネスモデルの構築を目指す。

(具体的取組)

- ・取組状況を円卓会議で報告し、地域づくり活動の情報提供や助言を実施。
- ・担い手団体の情報を信用金庫業界へ広く周知し、ビジネスマッチングの機会を設けるため情報共有プラットフォームへの掲載。

### 取組 2

地域通貨からの寄付状況や支援先活動のPR支援（見える化）を実施する。

(具体的取組)

- ・ローカルクロスメディア（地元紙・地元ケーブルテレビ）による地域通貨からの寄付の仕組みの紹介、地域づくり活動の紹介、浅利クリニック 院長 浅利俊彦氏による活動内容と関連する健康アドバイスの実施。（健康寿命の延伸との関係）
- ・インターネットサイト（スマホ対応）やSNS、動画を活用した情報ツールの構築による支援。
- ・寄付端末（「こちょっぴー」）の画面、機能修正。

### 取組 3

多世代が参加し、横のつながりを創出され、支援先活動が地域ぐるみとなるためのまちづくりワークショップを開催する。

(具体的取組)

- ・担い手に市民との交流、関係団体との交流を通じて活動への理解者が増え、事業の発展につながることを理解してもらうことを目的とするワークショップ3回を開催。
- ・情報交流機会の創造と多世代ネットワークの構築支援を意識して実施。

#### ◆第1回まちづくりワークショップ（H27.8.21開催）◆

講師：関谷 昇 氏（千葉大学法政経学部准教授）

銚子市の健康寿命の延伸につながる地域づくり活動団体の内容と地域通貨「すきくるスター」からの寄付による活動支援の仕組みを紹介、地域づくり活動団体の課題解決につながる具体的な取組や今後の事業の成長・発展につながる方策をグループ討議により検討。



◆第2回まちづくりワークショップ（H27. 11. 22 開催）◆

講師：孫 大輔 氏（東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター講師）

医療、看護、介護等の分野を将来の職業選択に含めている高校生や大学生、多様な現場で地域づくりに関わる多世代が参加し開催。地域通貨「すきくるスター」の寄付で応援できる活動状況も改めて紹介した。討論テーマ・銚子ソーシャルキャピタルをもっと高めるには？・住民主体で地域の課題に取り組むためには？・銚子の人々が健康で幸せに暮らし続けるためには？



◆第3回まちづくりワークショップ（H28. 1. 29 開催）◆

講師：関谷 昇 氏（千葉大学法政経学部准教授）

今年度2回開催されたまちづくりワークショップと、支援先活動、取組みへの協力などを改めて振り返った後、「健康に暮らし続けることができる地域のミライ図をつくろう」をテーマに、さまざまなまちづくり活動同士等ネットワークの構築と当事者意識の重要性を学びながら、テーマを叶える具体的な企画案を討議。



## 成果目標と成果

成果目標	現状	目標	成果
【有銚子海洋研究所】 子どもの体験乗船、年間乗船者数	0名、2,566名	10名、3,000名	103名、2998名
【海と月のグリーンマーケット in 銚子】 マーケット出店者数、来場者数	27店、200名	30店、300名	30店、315名
【NPO 法人銚子スポーツコミュニティ】 ラン&サイクルステーションの設置数、犬吠埼エンデュー ーロ大会のボランティア数	15箇所、0名	25箇所、70名	25箇所、80名
地域通貨からの寄付	0円	230,000円	252,539円

### (3) ワーキンググループでの個別テーマによる討議

平成27年8月から11月まで3つのテーマごとに計12回のグループ討議を実施しました。

同年11月に成果報告会を開催し、各テーマの課題や問題を共有し、具体的な取組の提言を行いました。

#### (i) 新しいお金の流れを考えるワーキンググループ

##### 目的

地域通貨の活用促進、犬吠WAONカードの積極的なユーザー増及び寄付金の活用方法に関する提言をまとめる。

##### 課題

- ・ 端末設置や利用に係る手数料の負担が大きい。事業者メリットが明確でない。
- ・ 加盟店の魅力度が低く、消費者の利用促進につながっていない。
- ・ 加盟店を増やすための営業活動のためのマンパワーが足りない。
- ・ 地域通貨の仕組みが分かりにくく理解しづらいため、地域通貨の流通効果が理解されていない。  
仕組みを丁寧に段階を踏んで説明することが必要。

##### 方向性（提言）

- ・ 犬吠WAONカードにたまる地域通貨がいかに地域に貢献するか、円卓会議で再確認する。
- ・ 店舗数の増加、仕組み、ポイントなど現在発生している課題について、スピード感を持って検討する必要がある。
- ・ 円卓会議の各構成主体が、今後も積極的かつ具体的な活用策を検討する。

##### 今後の取組内容

- ・ 仕組みを段階別に理解させる取組、仕組みの見える化・地域ぐるみ化。
- ・ 犬吠WAONカード所持者の増加・協力店舗数を増やすための広報活動や営業活動。

- ・地域通貨で地域づくり活動を支援する（中間支援）。
- ・地域通貨の普及促進。

(ii) おおらかに人が育つ地域について考えるワーキンググループ

**目的**

多世代コミュニケーション活動の場づくりへの提言をまとめる。

**課題**

- ・価値観の違う人たちとどうコミュニケーションをとるか。
- ・他者を認め受け入れる地域であることが重要。
- ・多世代交流の機会の喪失、地域コミュニティの希薄化。
- ・情報の共有がされていない。人と人をつなぐ意識が低い。

**方向性（提言）**

- ・銚子の良さを知り地域を愛する人を増やすため、ふるさと教育や銚子学を充実・推進していくことが必要。
- ・多世代が交流する、学習する場の必要性。
- ・歴史や文化、観光資源等の地域資源データの一元化。

**今後の取組内容**

- ・ふるさと学習プログラムの共同研究。
- ・銚子検定の検討。
- ・ICTを活用した地域資源データベースの構築。
- ・多世代交流のワークショップの開催。

(iii) 新しいコミュニティづくりについて考えるワーキンググループ

**目的**

「生まれる」「育つ」「学ぶ」「支える」「死ぬ」が有機的につながるコミュニティの考え方を整理し提言をまとめる。

**課題**

- ・地域内の連携不足が課題
- ・閉鎖的なコミュニティのため連携のための新しいコミュニティの場が必要
- ・健康についての意識が低い

**方向性（提言）**

- ・地域の価値を高めてアピールできる災害対応力を高めること
- ・健康寿命の延伸について市民と行政が協働で取組む
- ・若い人が銚子に愛着や誇りを持てるように楽しみ、喜びが高まる地域であること

**今後の取組内容**

- ・防災教育と防災訓練を柱に多世代で定期的に有機的につなげる場を設ける。
- ・健康増進の方策について多世代で交流し、学び、情報共有する仕組みを作る。
- ・自分の役割があり、交流と学びのある幸福度が高まる場を設ける。



## ◎円卓ビジョン 2020 行動指針◎

平成27年度事業による事業成果と課題を踏まえ、市民自治を進めるための目標となる行動指針を以下に示します。

尚、地域通貨の流通促進については、重要業績評価指標（KPI）を設定し、円卓会議の場において効果を検証することとします。

### (1) 市民が自分たちでできること

#### ①地域の資金循環と環境整備

- ・地域通貨の普及と付加価値化
- ・生産～労働～消費の地域内循環化（対外的な資源提供（生産と労働）と対内的な資源循環（消費）の架橋）
- ・異職種交流
- ・コミュニティ・ビジネス
- ・応援資金の獲得（サポーター）

#### ②地域の人材育成と郷土愛の醸成

- ・まちづくりの人材育成
- ・地域とつながる当事者意識の醸成
- ・地域学習とまちの魅力の相互理解
- ・異世代、地域外人材との交流
- ・人材活用場や機会の創出

#### ③市民参加の多様性の可視化と定着

- ・討論～寄付～市民活動～経済活動のすべてが市民参加（それぞれの活動が地域づくりにおいて意味を持っていることの理解）
- ・多角的な地域活動支援
- ・地域活動のプラットフォームの充実

### (2) 補完行政への参画

#### ①(1)の取り組みの伝達

- ・相互理解の場や機会の創出
- ・行政の役割をめぐる意見交換

#### ②総合計画づくりへの参画

- ・既存の諸事業や計画の学習
- ・計画づくりにおける提案・提言

#### ③協働のまちづくりの推進

- ・ドゥタンクとしての役割
- ・個別事業ごとの連携の架橋
- ・行政提案の吟味

## ■地域通貨流通促進に係る重要業績評価指標（KPI）■

### ● オールスターズ（加盟協力店舗）数

現状値 69 店舗（2015 年度） ⇒ 100 店舗（2020 年度）

### ● 地域通貨「すきくるスター」発行流通数

現状値 1,196,515 スター（2015 年度） ⇒ 2,500,000 スター（2020 年度）

### ● まちづくり活動に参加する市民の数（WAONカードのアクティブホルダー数）

現状値 3,200 人（2015 年度） ⇒ 6,000 人（2020 年度）

## ■活動スケジュール■

▽2016 平成 28 年度

### ○この指とまれ！プロジェクト推進による寄付団体への支援（寄付金）

地域通貨からの寄付のしくみを活用した市民活動への中間支援活動

### ○電子地域通貨の発行流通拠点（商店・事業所）の拡充とPR体制の構築支援（加速化交付金活用）

情報整理と公開、資源の磨き上げと発信によるICT基盤整備を通じたコミュニティビジネス構築。

### ○まちづくりワークショップの開催支援～エリア別／総合計画策定への参画（加速化交付金活用）

総合計画策定と連動させたまちづくりワークショップの開催

- ・ エリアコミュニティ型開催の検討
- ・ テーマ型開催

案 1：ふるさと学習の推進／対話型協働によるプログラム開発の検討

銚子に対する理解を深める学習プログラムに加え、子ども達が「安心して戻ってこられる」

「暮らしていける」「離れていても応援できる」ふるさとを目指すまちづくり教育と、まちづくりを継続的に支える人材の育成のための方法を探る。

案 2：総合計画の柱別まちづくりワークショップ

### ○地域通貨を活用した資金調達の検討と実践（加速化交付金一部活用）

- ・ 市民自治推進のための財源確保策として電子地域通貨「すきくるスター」を活用したファンドレイジングを進めるための勉強会（講演会）の開催と資金調達の実践。

### ○地域通貨活用応用事業の検討と実践（寄付金）

- ・ 地域通貨活用の付加価値としてのツアー等の検討

▽2017 平成29年度

- 中間支援体制の検討／コミュニティ財団等
- インターンシップ等まちづくり人材の発掘・受入・育成体制づくり
- ICT地域通貨「すきくるスター」活用型事業の推進
- ICTビジネスマッチング事業の推進
  - ・この指とまれ！プロジェクト支援
  - ・まちづくりワークショップ開催支援
  - ・視察研修プログラム実践
  - ・ファンドレイジングの推進

▽2018 平成30年度

- 中間支援体制（コミュニティ財団）の確立
- エリア別新たなコミュニティ拠点づくり
  - ・インターンシップ等まちづくり人材の発掘・受入・育成支援
  - ・ICT地域通貨「すきくるスター」活用型事業支援
  - ・ICTビジネスマッチング事業支援
  - ・まちづくりワークショップ開催支援
  - ・この指とまれ！プロジェクト支援
  - ・視察研修プログラム実践
  - ・ファンドレイジングの推進

▽2019 平成31年度

- ・エリア別新たなコミュニティ拠点づくり支援
- ・インターンシップ等まちづくり人材の発掘・受入・育成支援
- ・ICT地域通貨「すきくるスター」活用型事業支援
- ・ICTビジネスマッチング事業支援
- ・まちづくりワークショップ開催支援
- ・この指とまれ！プロジェクト支援
- ・視察研修プログラム事業支援
- ・ファンドレイジングの推進